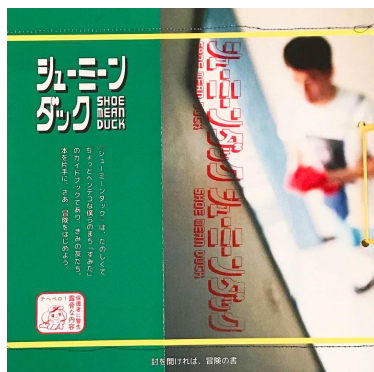


satokai-farm おれぜんつ☆=

ジ〜ン (zine) な店 (shop)

プロフィール〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜ル



SHOE MEAN DUCK

毛柴有喜とさとうかいによるすみだの街を拠点とした秘密結社（ZINE制作プロジェクト）。街を練り歩き、発見した秘密とやさしさを袋とじに詰め込んで販売する。まぼろし空間「ユブネ」にて、不定期で製本教室も開催している。<http://fukurotojine.tokyo/>

毛柴有喜

東京都生まれ。すみだ区にあるスペース「まぼろし空間ユブネ」の中の人。生活をモチーフにした作品を発表しながら、地元の仲間と一緒に、カセットテープやCDのアートワーク、アパレルのデザイン等にも手を染める。日々、生活が豊かになるスパイスやユーモアを求めて、すみだ区をキックボードで徐行中。見かけたら無視せず声をかけてもらいたい派。

ジ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜ン

- ・「SHOE MEAN DUCK vol.0」
- ・「別冊SMD〜キャッチボールおじさんの足跡〜」

インタビュー〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

—「SHOE MEAN DUCK」（以下、SMD）ってどんなZINE？

SMDは、すみだの街について語っているZINE。でもZINEの中で自分たちがやっていることは誰しもが自分の街で、普段の生活において頭の中でやっていることだと思う。みんな、「ここ行ってみようかな」「この人今日はいるかな」とか、街の情報を頭の中で編集しながら行動しているはず。自分たちはそれをZINEとして形に市ただけ、っていう感覚かな。同じことは誰にでもできるけど同じものは絶対できない、そういうもの（笑）

あと、ZINE自体が袋とじになっているのもポイント。「袋とじ」ってだけで中身が何であれドキドキできるのって最高のエンタメだと思う。「袋とじ」って一見、男性向けのエッチなもののイメージもあったりするけど、それだけの特権にするのはもったいない。いろんな人にミシン目をビリビリする楽しみを味わってもらいたいっすね。ZINEを作るってなった時から、「袋とじにしたい」っていう想いがあって、最初はZINEを袋に入れてと考えていたけど、試行錯誤を重ねながら最終的にはZINE自体を袋とじにする今のスタイルになった。一冊作るのにもものすごく手間と労力がかかったけど、あれは一つの発明だと思う。

—なぜすみだの街を舞台に？

別にすみだの街にこだわっているわけではなくて、実際場所はどこでもいいのかも。おいしいもの食べたり、面白い人やものに出会ったりしたら、人に教えたくなる。単純にそういう気持ちで作ってるかな。だから「街」というよりは、自分の好きなものを紹介したいという想いが強い。「こういう本を作るから」取材するのではなく、「この人このものを紹介したいから」ZINEを作る。それはSMDのポイント。そういう気持ちで自分たちが作ったものが誰かに気に入ってもらえて、手にとったひとのZINEへの制作欲を刺激して「自分ならどう作るかな」と思ってもらえたら嬉しいよね。

—なぜ表現方法をZINEにした？

自分たちが楽しく作って、楽しく伝えられる媒体だから。あとZINE自体を作りたいと思ったきっかけは、自分自身の武器とか名刺代わりになるようなものを持ちたかったというのが大きいかな。「何してるの？」と言われた時に渡せるもの。以前デザインの会社で働いていた時、「〇〇（会社名）で働いています」って言っても「楽しそうですね」くらいにしかならなかった。会社は自分のものではないからそこから話が広がっていかないんだよね。遠慮があつて。でもZINEは完全に個人のメディアだから、ちゃんと自分自身を紹介するものになる。だから、自分のやっていることを知ってもらうためのツールとしてZINEを使っている感覚かな。会話のラリーが多くなるためにZINEを作っているとも言えるかも知れない（笑）

